

音更町総合計画審議会会議結果（要旨）

会議名	音更町総合計画審議会 総務部会（第3回）
開催日時	平成27年8月27日（木） 午後7時から午後8時30分
開催場所	音更町役場2階 第1・第2委員会室
委員出席者	高山部会長、茂古沼部会長代理、遠藤委員、小川委員、杉原委員、津久井委員、二瓶委員、原谷委員
事務局出席者	杉本総務部長、傳法企画財政部長、村瀬総務課長、渡辺企画課長、佐藤広報広聴課長、吉田財政課長、川瀬総務課参事（職員担当）、小塩情報・防災課長、福井税務課長、松井収納課長、金谷会計管理者、原尾出納室長、高田監査事務局長、永谷消防本部総務課長、九本消防本部企画課長、市川音更消防署警防課長、西岡企画調整係長、高田企画調整係主任
議題・諮問内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 部会長あいさつ 2 会議の進行等について 3 議件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本計画修正案について (2) 議員協議会での意見等について (3) 役場庁舎の耐震化等について (4) 音更町人口ビジョンの考え方について 4 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・次回審議会の開催日程について
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画見直しシート（修正後） ・総合計画審議会専門部会での意見等対応調書（総務部会） ・議員協議会での意見等対応調書（総務部会） ・音更町人口ビジョンの考え方 ・人口ビジョン・総合戦略の構成イメージ ・役場庁舎耐震化資料
会議結果	下記のとおり
出された 主な意見等	<p>■基本計画修正案について</p> <p>（行政運営）</p> <p>委員：保育園の民営化によって軽減された財源や人材を活用して、学童保育所の開設時間を延長したとか、責任者を配置したという他に何か子育て支援の充実を図った事例があれば教えていただきたい。</p> <p>事務局：一時保育、病後児保育、休日保育などの拡充や、例えば、子どもの健診に力を入れるなど、保育のニーズを充実させている。</p> <p>■議員協議会での意見等について</p> <p>（コミュニティ）</p> <p>委員：まちの駅について調べたところ、NPO法人がとりまとめをやっていて、窓口を通さなくても直接申し込めばまちの駅として認定を受けられると書いてあったと思う。今回この計画の中に「まちの駅など」と入れるということは、ある程度音更町としてまちの駅づくりに関わり、町が仲介役的なところも踏まえて動こうというようなことを想定されているのか。</p> <p>事務局：行政が主導を取るか民間が主導を取るかは分からないが、そういうお話があれば行政と民間で何らかの形でこういうものを作っていかなければならないということで記載した。旧ファミリーセンター跡地でそういうことをやりたいという方もいるので、それが契機となって、本町や、木野市街地、温泉でもそういうお話があれば、町としても何らかの形で加わって行って、そういうものが作ればと思っている。</p>

委員：多分、こういうものができれば、観光客の方がちょっと迷ったりしたときにそこに入って、美味しい店や、観光スポット等を気軽に聞けるような場所だととらえているので、増えれば非常にいいと思う。

委員：民間か町のどちらかが主導してやるのか。何か起きたときに責任はどこにあるって、トラブルの対処はどんな風にするのか。

事務局：行政を通らないでNPOや個人の方が申請してもよいことになっており、色々条件があると思うので、それクリアすればいいと思う。その中で、行政がお手伝いできるものがあればお手伝いするだろうし、その辺はこれからの研究だと思っている。

■役場庁舎の耐震化等について

委員：前回の審議会で発言された皆さんからは、どちらかという建て替えの方に賛成だというご意見だったと私も理解している。最初、私も資料を読んだ時は、建て替えの意見に賛成だったが、先日の勝毎に幕別町の新庁舎工事に関して、経済的な妥当性がないというような表現、住民監査請求でそのような措置がとられたという記事が載っていた。この建て替えの目的が、災害対策本部としての機能を充実させるという意味であれば、普通の家庭であれば家を建てようとするのであればまず貯金をするというのが最初で、町の財政の中でも将来に向かって積み立てができるのであれば、まず災害対策本部的なものだけ、あまり大きくなく町民の皆さんに説明がつくものを、しっかり作るなり、空間を補強するなどして、その他の全体的なところについては財政的なところもクリアしてから検討する方法も一つあると思った。この件については、多大な金額がかかるので、町民の皆さんにご案内したときも、両方からぶつかってしまうかと思われたので、災害対策本部が第一だということであれば、そこをまず絞って考える方法もあるのではないかと。

委員：建て替えだと期間も長いし、多大な費用もかかるので、まずは役場が災害時において重要な機能を果たす場所を保つためにも、増減築でその状態を保つのが第一ではないか。こちらの方だと期間が短いし、費用もやはり下がるので、建て替えと比べた場合町民から見たらこちらの方がいいという意見が出るのでは。

委員：建築については知識がないので、正直、判断はできないが、地域住民が納得するような決定に至るプロセスが問題ではないか。例えば、新築であれば総工費がどれくらいかというコスト面と、耐用年数がどのくらい想定できるのか、1年当たりのコストがどの程度になるか、また、増改築の場合は不確定要素が入るので非常に難しいのかもしれないが、総工費がどれくらいか、耐用年数の延長は概ねこの位で、単年度コストはどのくらいかかるというようなこと。特に新築の場合は様々な可能性を秘めた設計ができると思うので、建物としての機能がどのくらい増えるのかというようなこと、地域住民のプラスの効果が相当期待できるということもそれぞれにおいてリストとして挙げた上で、増築にするのか、あるいは新築にするのか、第三の選択肢があるのか、そういう決め方ではないか。

委員：耐震改修が目的だということなので、庁舎の増減築がいいのでは。庁舎の新築という話になると、どこに建てるのかという論議になってくるはず。幕別の住民監査請求に関しても火種は結局そこにあって、庁舎がどうこうでは無くなっている。音更の場合も、木野支所があって、事務の多さから言うと、現状の木野支所でいいのかということになり、それはまちづくりの拠点をどこに置くかという論議がベースにならないと、新庁舎の建て替えという形にはならないのかなと。今の役場機能が災害時に耐えきれない可能性があって、それを何とか是正しなければならぬということであれば、最小限のコストで最大限の効果がでる方法、増減築の方式がいいと考えている。

委員：町民を納得させるのは厳しい部分もあり、新築にこしたことはないのかもしれないが、実際に我々がどのくらいの負担をするのかははっきり分かることがい

いと思う。もっと我々に身近な感じで伝えていただければ判断しやすい。

委員：結局新しく立派なものを建てることによって、自分たちの子どもや孫の負担増になるのではないかという気がする。確かに新しく立派なものが使いやすくきれいで一番いいと思うが、返済の方については町民の負担が必ず増えてしまうのではと思う部分と、東京オリンピックなどで2020年に向けて更に資材単価高騰や人手不足が予想される厳しい時期にも当たるので、増減築の方が好ましいのではないか。

■音更町人口ビジョンの考え方について

委員：人口動態で、15歳から19歳、40歳から44歳、この辺の家族構成の方がこの10年間でおそらく転出をされたと思うが、要因を把握していれば教えていただきたい。出生率を見ると音更町は非常に健闘しているように見えるが、要因として考えられることは何か。

事務局：15歳から19歳については、多くは進学や就職に伴う転出超過が大きいと分析している。40代のところは、この年代だけが抜ける要因の分析としては持っていない。出生率については、やはり住宅地を開発した中で、そういった年代が来ているということは間違いない。町が独自でやっている部分では、子どもの健診の率は他の町よりも高い数字を持っている。あと、保健や医療といった面では充実している。

委員：15～19歳、20～24歳がガクッと減るのはこの町でもあると思うが、何とかするということが対策としては必要では。

事務局：音更で生まれ育った人がやがて戻ってくるような施策を検討しなければならない。他の部会でも一番強く言われている。

委員：Uターンだけではなくそのまま住み続けられるというのも必要では。

事務局：他の部会でも同じような指摘があり、それは総合戦略の方できちんと謳わせていただく。

委員：若い世代は、進学や就職を考えたときに、正直なところ、札幌などへ行きたいという人が大半。東京で就職したい、道外へ行きたい人が大半だと思う。ただ、あることがきっかけで戻ってきたいと思う人がいるのも確か。そのためにも若者のニーズを聞いておくべきだと思う。戻って来る場所の確保と、戻ってきたときに、昔あったものが残っていたらいいと思う。自分がここで育ったという面影があることは、その地に残ろうという意思にも繋がるのではないか。

委員：総合計画を作ったときに、地域ごと、区域ごとの課題も整理されていたと思うが、色々な全国の過疎地域で非常に頑張っているところは、やはり人口規模が小さく、小さいからこそ危機感が共有されて、みんなで一緒にやろうという状況ができていると思う。それからすると音更町の人口規模や、人口の動態を見ても何となくまだ余裕がある感じになっているのかなという気がする。例えば、駒場であれば、高校までは全部近くで揃っているわけで、そういうような地域における暮らしの良さというものを、住んでいる方々が磨き込んでいくような、目標設定をした特色のあるまちづくりを地域ごとにできるような枠組みをした方がいい。温泉については、観光と農が地域の一つの特徴として明確にあるので、そこに住んでいる方々が地域を一つの町・村のように考えて、観光のメッカとして、あるいは近隣の農家と絡めた特色あるまちづくりをしていくという主体的な動きを導き出すような仕組みを今まで以上に設定する、木野であれば、街としての楽しみ、賑わいなど、民間をベースにどんどん活性化させていくとか、それぞれ地域ごとの特色を活かすようなまちづくりというのもあっていいと思った。

事務局：地域のまちづくりの方針というのは、今回の見直しでも同じように整理をする。その中で、地区を音更、木野、駒場、宝来という市街地と農村部に分け、同じように作り込みをする予定。

委員：釧路も人口が減って疲弊しているということだが、涼しい霧の町ということで全国にPRして、空き家を利用して何か月か住まわせて、Iターンさせ、関東、関西から来ている。ああいうようなことを音更町も発信してはどうか。若い職員の意見を聞いてやっていったらいいと思う。

事務局：地域間交流の中に移住・定住と一つ項目を入れたのがその部分で、新たに力を入れるという部分なので、承知している。

委員：学生時期の流出は、簡単に止められるものではない。子どもを産む世代や、子どもを育てている世代の方が音更に入っただけのための環境を充実することで、結果的にここ出身の方も増えてくることになると思う。若い世代の感覚を変えるのは中々難しいと思うので、少し経ったところで、いかに音更町に戻ってきてもらうかということが大事だと思う。

委員：子どもを増やす、子どもが音更で暮らすということを考えると子ども手当を単純に5万円、10万円ともっと増やしたらどうか。音更町で暮らせばそれだけの手当が町から出るということが耳に入れば、他の自治体から移り住んでくることもきっと多いと思う。

事務局：他の部会でも、音更で年間に生まれる子どもが約360人で、一人50万円としたら年間1億8千万円になるというような話も出た。音更の人口規模では公平さを保つために財政出動となった場合に、町単独の財政ではもたないのがつらいところ。中学校まで医療費無料というような施策を打ち出している町もあるが、本町ではすぐにそういった施策は打ちづらいと思う。

委員：音更町と幕別町と芽室町が比較されることがあると思うが、昼夜間人口の比較で、幕別町と音更町が同じくらいなのに芽室町が103.1という理由は何か。また、町推計で平成27年の社会増が1,071人となっており、非常に難しいと思うが、その辺りの見解は。

事務局：本町は住宅系の施策をずっととってきたので人口が増えてきたが、芽室町は工業系の施策をとってきており、工場などの企業があるので、昼間人口が多いのではないかと思う。人口推計については、国勢調査の結果をもとに推計しており、その伸び率でいくと2015年には46,017人とどうしても出てしまう。今年も国勢調査の年なので、2年後、3年後に社人研がまた推計を出してくると、より現実に近いものが出てくると思う。どうしても2010年以前の伸び率でやるので、乖離ができることは変だと思われるかもしれないが、どうしてもそういう数値が出ることはご理解いただきたい。

※次回専門部会は9月下旬、日程は改めて調整するものとした。